

| | | | | |
|-----------|----------------|------|----|----|
| 講義名 | 対)スポーツ施設マネジメント | | | |
| 担当教員 | 山口 泰雄 | | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 月曜日 1時限 | 授業形態 | 演習 | |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 | 備考 |

主題と概要

スポーツ庁は、2016年秋にスポーツ市場の規模は、2015年の5.5兆円から2025年には15兆円へ増やすと目標を掲げた。また、2019年ラグビーワールドカップ、2021東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2022年ワールドマスターズゲームズ in Japanのメガスポーツイベントが連続し、ゴールデン・スポーツウィークが到来する。スポーツ市場の拡大とスポーツ実施者の増大において、質の高い施設マネジメントが不可欠である。

この施設マネジメントでは、多様なスポーツ施設（公共施設、指定管理者施設、民間営利施設等）におけるマネジメントの基礎を学び、実際に運営されている施設において、2人1組のフィールドワークを実施する。フィールドワークにおいて学んだマネジメント施設と現状を1人組によりプレゼンテーションを実施し、多様なスポーツ施設のマネジメント知識と現状に関する情報共有を行うことにより視野を広げる。現地調査とプレゼン準備・ディスカッションにおいて学んだ知識と経験は、スポーツ関連企業の分析と理解への大きな力になる。

到達目標

この科目は、「対面型」で実施する。到達目標の達成のためには、フィールドワークを実施する上でビジネスマナーと態度を学ぶために、対面型での授業が必須である。「オンデマンド型」ではないため、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加し、フィールドワークに出ることが出来る高学年かつ真摯な学生に限定する。スポーツ施設でのフィールドワークにあたっては、事前にアポイントをメールで確定し、施設の概要をウェブサイトで事前学習を行う。また、新型コロナウイルス感染症等の学校感染者への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった場合は、解除後に補講等に個別対応する。

到達目標は、以下のとおりである。
 知識・理解：多様なスポーツ施設マネジメントに関する用語や実態を理解できる。
 思考・判断：フィールドワークにおいて、施設マネジメントの強みや弱みを説明できる。
 関心・意欲・技術：スポーツ施設マネジメントのイノベーションを述べ、所でプレゼンができる。

提出課題

フィールドワークを実施し、プレゼンを行ったPPT資料に加え、ディスカッション・グループワーク等による学び・感想を記した最終レポート。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

プレゼンでは、他者評価（プレゼン実施者を除く）を行い、評価に反映する。プレゼンの講評については、講義の終わりに強みと弱みに関してコメントする。最終レポートは、フィールドワークでお世話になった施設担当者の方へも提出する。

評価の基準

プレゼン（30%）、提出レポート（30%）、出席・授業態度・質問・コミュニケーション力（40%）。

履修にあたっての注意・助言他

「スポーツマネジメント論」、「スポーツビジネス論」、「スポーツ文化論」、「スポーツ組織論」の1科目あるいは複数科目を履修し、単位取得したことを受講の前提条件とする。スポーツ施設へのフィールドワークの実施と、フィールドワークの成果に関するPPTによるプレゼンを中心とした参加型授業で、学生の視野を広げ、実行力を伸ばす機会になる。遅刻者は、開始後15分以内とし、遅刻頻度が多い学生はフィールドワークを断念せざるを得ない。講義中の質問は加点する。また、個人用のUSBを毎回、持参すること。

| | | | | |
|-----|-------|--|--|--|
| 教科書 | .しない. | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

プリント資料及び参考文献

適宜、資料を配布する。参考文献は、「スポーツ白書 - 2030のスポーツのすがた -」（笹川スポーツ財団）。

授業計画

1. オリエンテーション、スポーツ施設の分類と意義（グループ学習）
2. ファシリテーターマネジメントの基礎（安全、安心、楽しい）
3. スポーツ施設の発展とイノベーション
4. ゲスト講師（スポーツ施設、指定管理者施設）
5. フィールドワークのガイダンス、ビジネスマナー講座（ベアラニング）
6. フィールドワークの事前学習（作成資料の提出）
7. フィールドワーク
8. プレゼン資料作成準備
9. プレゼン・ディスカッション・情報共有
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 振り返り、まとめ（最終レポート提出ガイダンス）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：2時間程度
 自習シラバスを確認し、参考図書・ネット等でその内容を事前に把握する

復習：2時間程度
 授業における配布資料に再度目を通し、重要なポイントを確認する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業を通して、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学部のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

PPTによるプレゼンテーションにおいては、質問に対して丁寧かつ冷静に説明し、コミュニケーション能力を高める。また、ビジネスマナー講座においては、ベアラニングを導入し、話し方やアポイントの取り方、メール文書の書き方を実践的に学ぶ。

実務経験の有無及び活用

市民マラソン大会の運営、質問紙調査の実施と分析、ジュニアスポーツリーダー講習会・高齢者スポーツイベントの運営など。

備考